

降雪に伴う農作物等管理技術対策について

平成26年2月13日

農業支援課

共通事項

- 1 パイプハウスなど簡易な構造の無加温ハウスは2月8日の降雪で倒壊の被害がありました。積雪による損壊を防止するため、積雪により負荷のかかる箇所に支柱や筋交いで補強する。また、被覆フィルムに積もった雪はできる限り落とし、積雪による負荷を軽減する。
- 2 加温設備のあるハウスでは、カーテンの隙間を開け、暖房機を運転してハウス内の暖気を放出し、融雪を促進する。
その際、いちご等低温性作物の場合には最低温度を高めを設定する。
- 3 融雪水が流入したり、湛水しないよう施設やほ場周辺に排水溝を設置する。

麦類

- 1 明渠を排水口へ連結し、ゴミによる詰まりがないか点検する。
- 2 気温の上昇により雪どけ水がほ場に滞水すると湿害を受けるので、速やかに排水対策を講じる。

野菜

- 1 施設栽培の果菜類
 - (1) 降雪後の急速な天候回復に伴って、葉や果実に日焼けを生じることがあるので、温度管理に注意するとともに、急激な換気はしない。
 - (2) 降雪に伴って日照不足による草勢低下が心配されるため、摘葉を控えるなど、葉面積を確保して草勢を維持する。
- 2 トンネル栽培
 - (1) 小型トンネルはこまめに雪かきを行い、つぶれないよう努める。
 - (2) 茎葉が損傷した場合、収穫・出荷に当たっては丁寧に調製を行って品質保持に努める。

果樹

- 1 防災網を架設してある園では、積雪による施設及び樹体の被害を回避するため、早急に取り除く。
- 2 果樹棚や支柱を補強する。
- 3 立木仕立てで雪が枝に積もる場合は、雪を落とし、枝の裂傷を防ぐ。

花植木

- 1 施設栽培では共通事項に示した対策を講じる。
- 2 植木類では、枝の折損及び倒伏等の恐れがあるので、幹の支柱や枝に添木等を行う。

チャ

- 1 融雪時は寒風害を受けやすいので、人為的な除雪は行わず、自然融雪を待つ。
- 2 被覆資材を直がけしている茶園で、積雪荷重により資材がうね間に落ちた場合は可能な限り元に戻す。